



感染症内科コース

<p>コース責任者</p>	<p>足立拓也（感染症内科医長） 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本感染症学会認定感染症専門医・指導医</p>			
<p>目標とする 専門医資格</p>	<p>基本領域学会の専門医（内科専門医など） 日本感染症学会認定感染症専門医 海外の専門資格（DTMH など）</p>			
<p>研修のねらい</p>	<p>感染症を切り口に、生まれてから老いてゆく人間の一生を通じた病態を理解して、すべての国籍・年代・職業・生活背景、あらゆる事情を持った患者への対応ができるようになることを目指す。</p>			
<p>研修目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 一般的な市中感染症を診断し、治療できる 一般医療機関では対応困難な感染症の診療依頼に対応し、診断し、治療できる <ol style="list-style-type: none"> 感染症法に規定される疾患 検疫法に規定される疾患 ヒト免疫不全ウイルス感染症・後天性免疫不全症候群、およびその合併症 院内他科の感染症診療を支援できる 院内感染対策の基本的手法を実行できる 予防接種について、個別の相談に応じて計画を立て、実施できる 自分が関与した意思決定について、説明責任を果たすことができる 			
<p>研修コースモデル ※新専門医制度の設計により変更する可能性あり</p>	<p>1 年次</p>	<p>基本領域学会（内科など）の専門研修</p>		
	<p>2 年次</p>	<p>基本領域学会の専門研修</p>		
	<p>3 年次</p>	<p>感染症内科（病棟・他科併診・外来・感染対策）</p>	<p>選択</p>	<p>選択</p>
	<p>4 年次</p>	<p>感染症内科（病棟・他科併診・外来・感染対策・ワクチン外来）</p>	<p>選択</p>	<p>選択</p>
	<p>※1～3 年次は基本領域学会の専門研修プログラムと調整する。選択期間は、院内他科、駒込・墨東・荏原病院の感染症科など。将来のキャリア形成を見据えて、本人の意向を尊重して決定する。</p>			
<p>施設の認定状況</p>	<p>日本感染症学会専門医制度認定研修施設 第二種感染症指定医療機関／エイズ診療拠点病院</p>			

入院症例の主な内訳 (平成 29 年度 129 例)	主要疾患	患者数	主要疾患	患者数
	尿路感染症 (腎盂腎炎など)	29	化膿性脊椎炎	4
	大腸菌 (感受性株)	14	G 群連鎖球菌	1
	肺炎桿菌	4	大腸菌 (感受性株)	1
	大腸菌 (ESBL 産生株)	3	大腸菌 (ESBL 産生株)	1
	プロテウス	2	化膿性関節炎	4
	腸球菌	2	B 群連鎖球菌	2
	呼吸器感染症	13	肺炎球菌	2
	モラキセラ	3	副鼻腔炎・扁桃炎	4
	肺炎球菌	1	G 群連鎖球菌	1
	肺炎桿菌	1	インフルエンザ菌	1
	モルガネラ (ESBL 産生株)	1	HIV/AIDS	4
皮膚感染症 (蜂窩織炎)	10	ニューモシスチス肺炎	2	
インフルエンザ	8	HIV 脳症	1	
腸管感染症	7	アメーバ赤痢	1	
カンピロバクター	3	劇症型溶血性連鎖球菌感染症	1	
<i>Clostridium difficile</i>	1	A 群連鎖球菌	1	
ウイルス感染症	5	細菌性髄膜炎	1	
帯状疱疹	4	大腸菌	1	
咽頭結膜熱	1	前立腺炎	1	
感染性心内膜炎	4	肺炎桿菌	1	
G 群連鎖球菌	1	原発不明の敗血症	1	
表皮ブドウ球菌	1	シトロバクター	1	
<i>Globicatella sanguinis</i>	1	結核性腹膜炎	1	
待遇・勤務条件	豊島病院シニアレジデント募集のページをご参照ください。 (http://www.toshima-hp.jp/recruit/resident/academy/index.html)			
選考日程	見学随時 / 応募締切 / 選考 上記ウェブサイトをご参照ください。			
問い合わせ	庶務課研修担当 または 感染症内科 足立拓也 (takuya_adachi@tokyo-hmt.jp)			
コース責任者より ひとこと	<p>当科では、次の時代の感染症診療を担う人材の育成に力を入れています。</p> <p>最初は個別症例を丁寧に診療することから始め、研修年次が進むごとに、病棟、他科併診、外来、院内感染対策、ワクチン外来と、段階的に活動範囲を拡大していきます。選択期間の研修先は、将来のキャリア形成を見据えて、本人の意向を尊重して決定します。コース修了時には、どの医療機関でも感染症診療の先頭に立てるような即戦力を備えることを目指します。</p> <p>より大きな視野で見たとき、当院の研修ですべての病原体をカバーできるわけではなく、感染症診療自体が国内で完結するものでもありません。意欲のある人は、海外にも目を向け、国内外の専門家と人脈をつくり、英語で (他の言語でもよい) 仕事ができるスキルを習得することを奨励します。</p> <p>優れたロールモデルに出会い、スケールは大きく、かつ細やかな配慮のできる職業人に育っていただけるよう、願っています。応募をお待ちしています。</p>			
 医長 足立拓也				